注意報　注意報　注意報　注意報　注意報　注意報　注意報　注意報

６０１１－１１３１
平成３０年４月２７日

各関係機関の長
各病害虫防除員　殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成３０年度病害虫発生予察注意報第１号について

平成３０年度病害虫発生予察注意報第１号を発表したので送付します。

平成３０年度病害虫発生予察注意報第１号

平成３０年４月２７日
宮　　崎　　県

病害虫名　　**葉かび病**

作 物 名　　**冬春トマト（ミニトマトを含む）**

平成29年12月25日付防除情報で注意喚起を行いましたが、依然、発生が多くなっています。防除対策の徹底を図りましょう。

１　発生地域　　県下全域

２　発 生 量　　葉かび病　　多

３　注意報の根拠

１）平成２９年１２月２５日付で病害虫発生予察防除情報第１０号を発表し、防除を呼びかけたが、その後も平年に比べてやや多で推移している。

２）４月中旬の巡回調査における発生面積率は50.0％（前年50.0％、平年28.8％）、発病葉率は16.1％（前年12.0％、平年5.5％）で、いずれも平年に比べ多の発生であった（図１，２）。
　発生面積率、発病葉率ともに過去１０年同時期で最も高くなっている。

３）向こう１か月の気象予報では、気温は平年に比べ高く、降水量は平年並の予報であるが、曇雨天日が多くなると、施設内の湿度が高くなり、病害の発生に好適な条件となる可能性がある（鹿児島地方気象台４月１９日発表１ヶ月予報）。

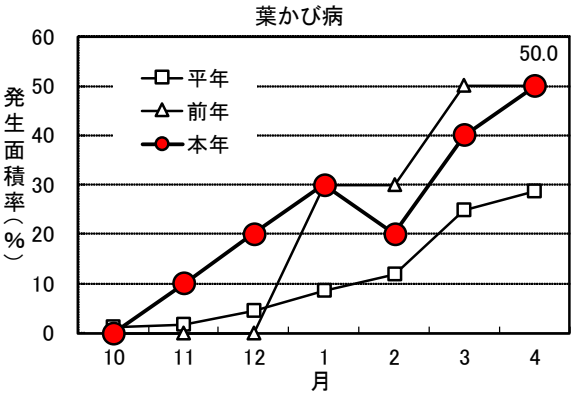

図１　巡回調査における発生面積率の推移

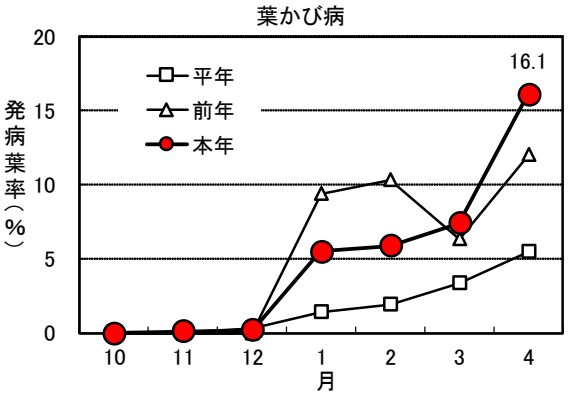

図２　巡回調査における発病葉率の推移

４　防除上の注意

１）密植や過繁茂により、施設内の湿度が高くなると発病しやすいので、換気を行うとともに、施設内が高湿度にならないように管理を徹底する。

２）発病葉は感染源になるため、生育に支障がない限りできるだけ摘葉し、すみやかにほ場外へ持ち出し適正に処理する。

３）多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布に重点をおき、発病が認められたら直ちに薬剤散布を行う。散布の際は、農薬が葉裏まで十分かかるように丁寧に散布する。

４）農薬による防除では、作用点の異なる薬剤のローテーション散布を実施する。複数の農薬で薬剤耐性菌の発生が報告されているため、農薬の散布によっても防除効果が認められない場合は使用を見合わせ、他の薬剤による防除に切り替える。

５）抵抗性品種が複数市販されているが、打破するレースも認められているので、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、本病の発病には注意する。

５　その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

【参考】葉かび病の症状

葉裏にだ円形～不整多角形の淡緑色で周縁が不鮮明の病斑を生じ、その上に灰紫色のカビを生じる。

《連絡先》
宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター）　松浦・倉永
TEL：0985-73-6670　FAX：0985-73-2127
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp